

2017年3月8日

【コード：3918】

PCIホールディングス株式会社

<会社説明会>



ご出席の皆様へ

本日は、会社説明の機会を頂戴し、誠にありがとうございます。

当社は、**情報サービス事業を営む4社を傘下に持つ純粋持株会社**であり、グループとして、ソフトウェア開発事業をコアに事業展開をしております。特に、**参入障壁が高いとされる自動車産業向け組込み系（エンベデッド）分野**に強みを持ち、**車載機関連で発展**を遂げてきたことが特徴です。

成長戦略の柱と定める『IoT/IoEソリューション』におきましては、**通信制御技術分野の研究開発に経営資源を積極投入**し、2016年9月期には、「**V-Lowマルチメディア放送『i-dio』**」の放送開始、神戸市「**市バスを情報通信基地とする実証実験**」への実証事業主体としての参画、総務省主催「**非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会**」への構成員としての参画を実現しております。

また、2016年11月30日に**株式会社シスウェーブを完全子会社化**致しました。当社グループの**IT技術**にシスウェーブ社の**半導体設計・テスト・ノウハウ**を融合することで、「**安心・安全・豊かな社会**」の実現へ向けたグループ戦略が大きく前進すると考えております。

当社グループは、「**安心・安全・豊かな社会**」を実現すべく皆様からのご期待にお応えできる企業体を目指します。「**自動運転**」、「**デジタルサイネージ**」、「**フィンテック**」、「**VR/AR**」、「**AI**」、「**ロボット**」等のキーワードに「**M&A戦略**」を加え、**グループの拡大戦略を加速**してまいります。

引き続きご支援のほど宜しくお願い致します。

PCIホールディングス株式会社

代表取締役社長



1. PCIグループとは・・・
 - ① 会社概要
 - ② 事業内容
2. PCIグループの強み
3. PCIグループ業績推移
4. PCIグループの成長性
5. PCIグループの株主還元

1. PCIグループとは・・・

① 会社概要



企業理念

我々は、**お客様の満足**を通じて
全社員の幸せを追求し、
 そして**社会の発展**に貢献します。

行動方針

- 安定した事業成長を実現します
- ユーザに適したソリューションを提供します
- 応援して頂ける企業を目指します
- 積極的（P）に変化（C）を求め、革新（I）します
- 全てのステークホルダーに満足して頂ける企業を目指します

(注) P : Positively C : Change I : Innovate

基本情報

商号	P C I ホールディングス株式会社 (PCI Holdings, Inc.)	資本金	10億3,741万円 (2016年9月現在)
所在地	〒 136-0076 東京都江東区南砂2-1-12	連結売上高	85億459万円 (2016年9月期)
代表者	代表取締役社長 天野豊美	連結経常利益	5億9,194万円 (2016年9月期)
設立	2005年4月	連結子会社	P C I ソリューションズ株式会社 P C I アイオス株式会社 Inspiration株式会社 株式会社シスウェーブ (2016年11月～)
従業員数 (連結)	1,058名 (2016年12月末)		

何をしている会社？

- ⇒ ソフトウェア開発を主力とした情報サービス事業
(お客様の要求に基づく受託ソフトウェア開発事業)

お客様は？

- ⇒ 主に B to B / 取引先 (約300社) の多くは上場企業
及びその関連会社

開発したソフトウェアはどこで使われているの？

- ⇒ 自動車、建機重機、モバイル端末、デジカメ、専用機器 等
- ⇒ 一般事業法人や金融機関の業務システム 等
- ⇒ 車載器、スマホ、太陽光発電モニタリングシステム 等

1. PCIグループとは・・・

② 事業内容



1. PCIグループとは・・・② 事業内容 ～ 4つの事業領域

エンベデッドソリューション事業



ビジネスソリューション事業



IoT/IoEソリューション事業



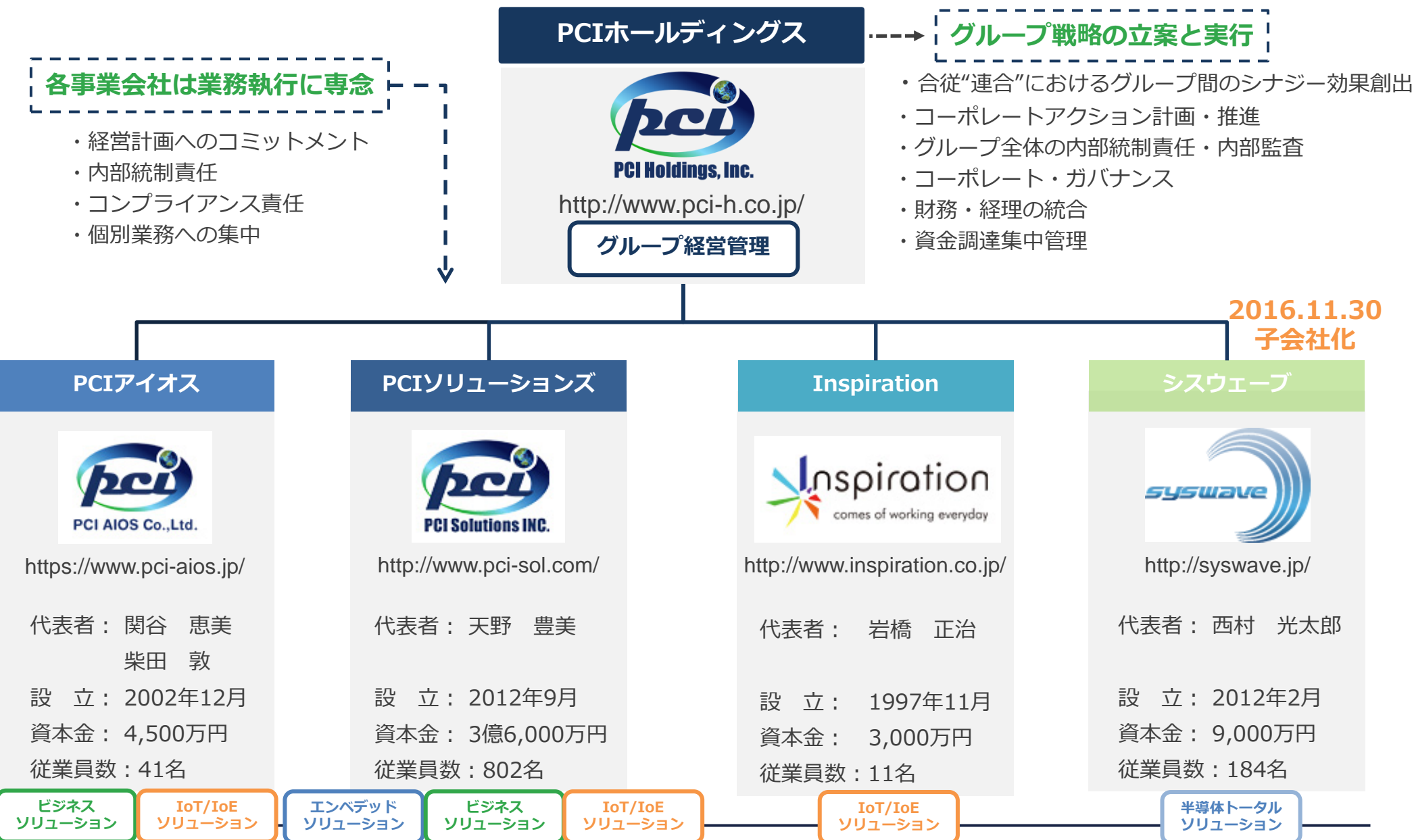
半導体トータルソリューション事業



1. PCIグループとは・・・② 事業内容 ～ グループ運営体制



PCIホールディングス株式会社がグループ事業会社を経営管理することにより事業成長を加速させます



<起業までの道のり>

- ・ 1975年 日本エヌ・シー・アール（現日本NCR(株)、東証1部上場企業）入社
- ・ 1996年 同社常務取締役就任
- ・ 2005年 同社役員を退任後、株式会社M&S（現当社）を起業
ITサービス関連事業を開始

<上場を成し遂げた二つの想い>

日本のITサービス業界における**従来の構造に風穴を空けたい**という想い
日本NCR(株)役員時に経験した上場廃止の経験から、**もう一度上場したい**という想い

<上場までの道程>

最初は**リーマン・ショックの前**。上場準備を行うも市場環境から延期を決断
次が、**東日本大震災の前**。この時は経常損失を計上。再度延期を決断
それでも何とか立ち直り、諦めることなく。。。

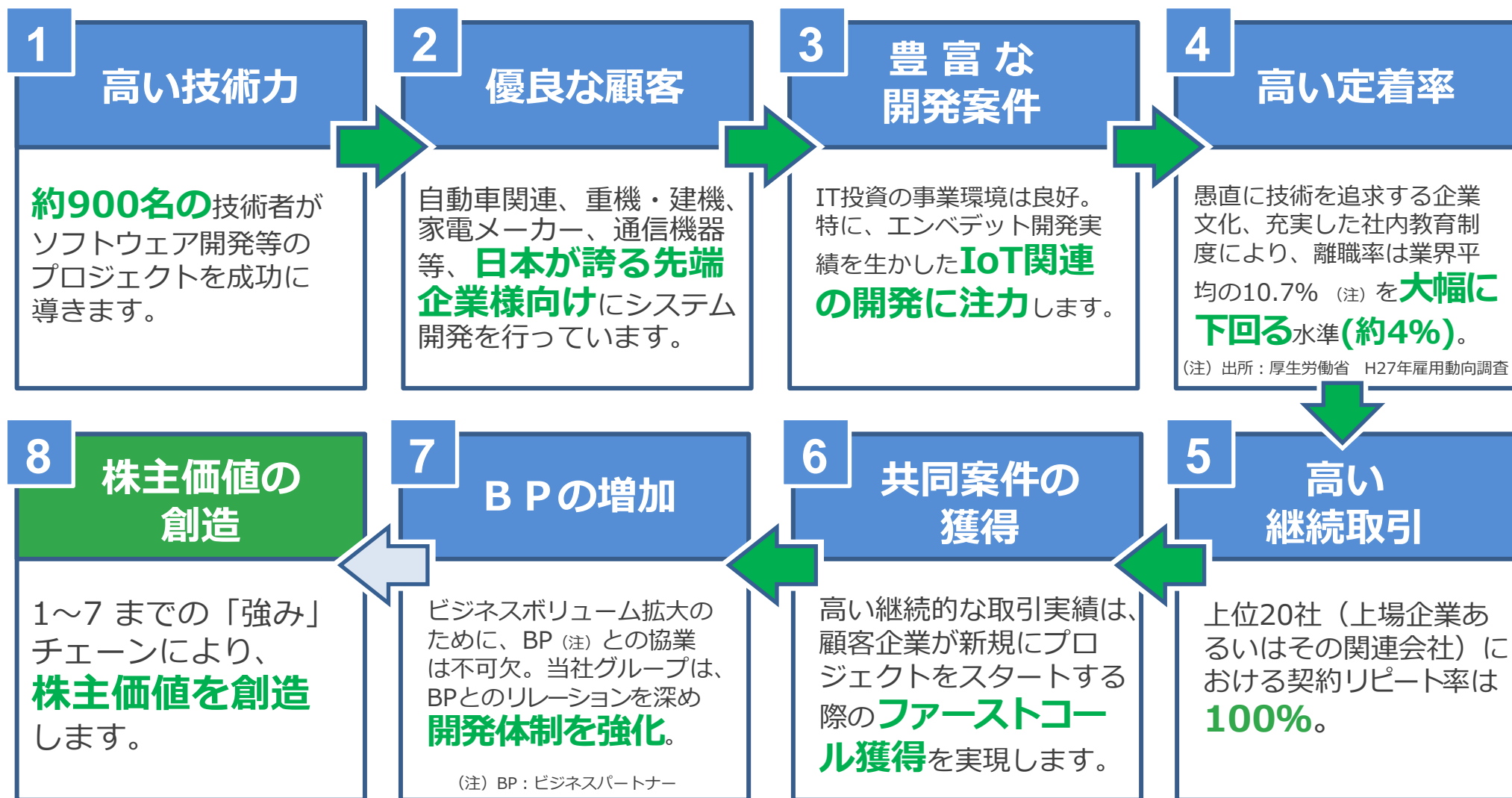
2015年8月に東京証券取引所マザーズ市場へ上場

そして2016年9月に**東京証券取引所市場1部へ市場変更**

2. PCIグループの強み



2. PCIグループの強み ～ 株主価値創造プロセス（強みのチェーン）



（注）各データは、2016年9月期末時点のもの

3. PCIグループ業績推移



<参考資料> 事業区分の推移について

2015年9月期

情報サービス事業

テクニカルソリューション事業

エンベデッドシステム分野

ビジネスシステム分野

ビジネス
ソリューション事業

IoT/IoE
ソリューション事業

2016年9月期

情報サービス事業

エンベデッド
ソリューション事業

ビジネス
ソリューション事業

IoT/IoE
ソリューション事業

2017年9月期

ITソリューション事業

エンベデッド
ソリューション

ビジネス
ソリューション

IoT/IoE
ソリューション

New

半導体トータル
ソリューション事業

2017年9月期 第1四半期決算業績サマリー



売上高：既存事業の順調な成長及び半導体トータルソリューション事業の寄与により、売上高は**前年同期比23.8%増**と高水準で着地した。

売上総利益：高収益ビジネスであるIoT/IoEソリューションと半導体トータルソリューション事業が共に寄与し、**売上総利益が前年同期比32.3%増（売上総利益率は+1.6pt）**と大幅に成長した。

経常利益：シスウェーブ社の子会社化に伴う**M&A費用等の負荷**や、**先行投資である研究開発費**を吸収し、**前年同期比38.3%増（経常利益率は+0.9pt）**となった。

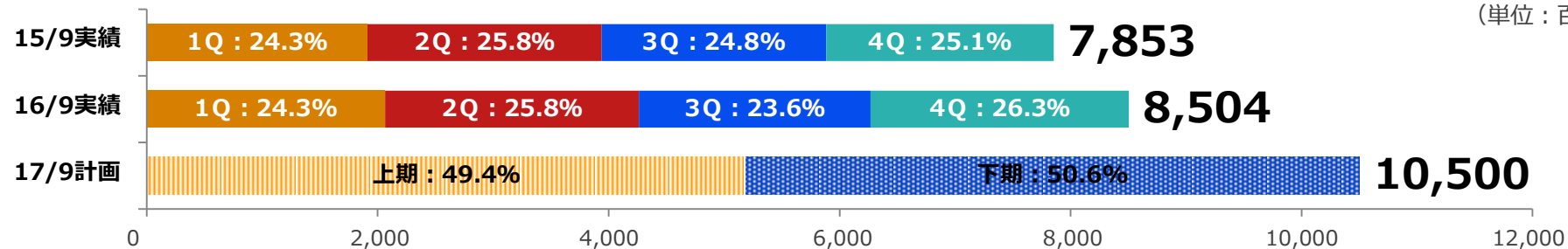
(百万円)	16年9月期	17年9月期 (計画)						通期計画 進捗率
	第1半期 実績	第1四半期 実績	前年同期比増減	第2四半期 見込	上期計画	下期計画	通期計画	
売上高	2,063	2,554	23.8%	2,635	5,190	5,310	10,500	24.3%
売上総利益	479	633	32.3%	668	1,302	1,302	2,604	24.3%
(売上総利益率)	23.2%	24.8%	(+1.6pt)	25.4%	25.1%	24.5%	24.8%	-
営業利益	160	222	38.8%	199	422	268	690	32.3%
(営業利益率)	7.8%	8.7%	(+0.9pt)	7.6%	8.1%	5.0%	6.6%	-
経常利益	161	223	38.3%	198	422	273	695	32.2%
(経常利益率)	7.8%	8.7%	(+0.9pt)	7.5%	8.1%	5.1%	6.6%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	104	140	34.0%	130	271	179	450	31.3%
(当期純利益率)	5.1%	5.5%	(+0.4pt)	4.9%	5.2%	3.4%	4.3%	-
EPS	-	37.48円	-	-	-	-	119.85円	-
ROE	-	4.5%	-	-	-	-	-	-

※第2四半期見込に記載の数値には、(上期計画) - (第1四半期実績) を記載

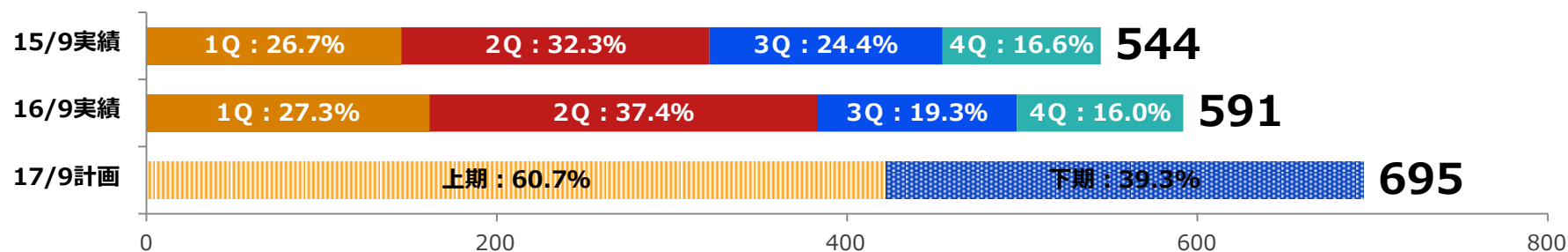
業績推移 (サマリー)

(単位：百万円)

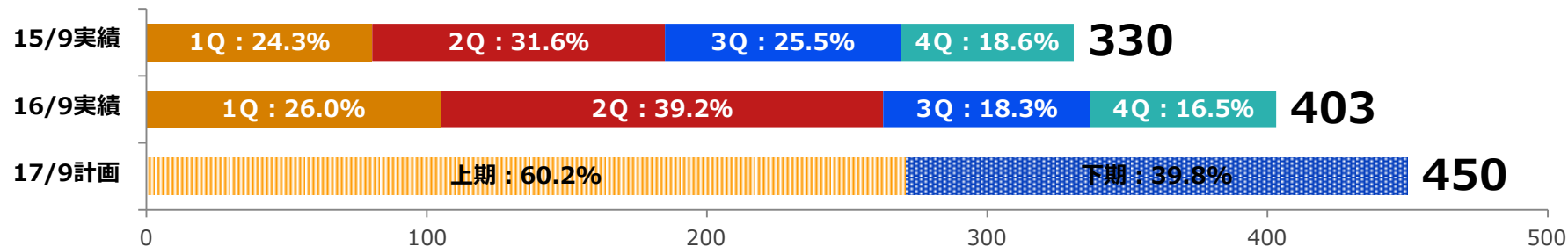
売上高



経常利益



当期純利益



連結損益計算書



(百万円)	2016年9月期				2017年9月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q (実績)	2Q (見込)	下期計画	通期計画
売上高	2,063	2,198	2,005	2,236	2,554	2,635	5,310	10,500
エンベデッドソリューション	938	1,062	980	1,129	977	-	-	-
ビジネスソリューション	923	910	872	913	1,058	-	-	-
IoT / IoE ソリューション	201	225	152	193	192	-	-	-
半導体トータルソリューション	-	-	-	-	325	-	-	-
売上原価	1,584	1,643	1,508	1,786	1,920	1,967	4,008	7,896
売上総利益	479	554	497	449	633	668	1,302	2,604
エンベデッドソリューション	202	260	225	212	227	-	-	-
ビジネスソリューション	206	220	220	184	222	-	-	-
IoT / IoE ソリューション	70	73	51	52	71	-	-	-
半導体トータルソリューション	-	-	-	-	111	-	-	-
販管費	318	342	384	345	411	-	-	-
営業利益	160	212	112	104	222	199	268	690
営業外収益	2	10	2	1	1	0	0	0
営業外費用	1	1	1	11	0	0	0	0
経常利益	161	221	114	95	223	198	273	695
税前利益	161	221	114	95	223	198	273	695
法人税等	56	63	40	28	82	68	94	245
親会社株主に帰属する当期純利益	104	157	73	66	140	130	179	450

※半導体トータルソリューション事業については、2017年9月期より追加された区分であるため、前期売上実績の内訳は掲載せず

連結貸借対照表



(百万円)	2015年9月期				2016年9月期				2017年9月期
	1 Q (参考)	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q
流動資産	2,418	2,451	2,357	3,087	2,962	2,864	3,204	3,898	3,694
現預金	819	700	790	1,489	1,127	1,005	1,571	2,239	1,499
売上債権	1,361	1,446	1,305	1,270	1,587	1,567	1,346	1,419	1,884
その他	238	304	262	327	248	291	286	238	310
固定資産	330	323	330	198	310	470	476	480	628
資産合計	2,748	2,774	2,688	3,285	3,273	3,335	3,680	4,378	4,322
流動負債	1,458	1,375	1,199	1,096	1,105	1,005	1,258	1,119	1,090
仕入債務	338	211	198	230	438	303	284	282	324
その他	1,119	1,164	1,001	866	667	701	973	837	766
固定負債	61	65	70	74	77	82	99	103	122
負債合計	1,519	1,441	1,270	1,171	1,183	1,087	1,357	1,222	1,213
純資産合計	1,228	1,333	1,417	2,114	2,090	2,248	2,322	3,155	3,109
負債純資産合計	2,748	2,774	2,688	3,285	3,273	3,335	3,680	4,378	4,322

※2015年9月期第1四半期は、参考数値。

2016年9月期 貸借対照表、キャッシュ・フローのポイント



資産： 現預金等が増加。
 負債： 有利子負債を全額返済し無借金経営を実現。
 資本： 株式上場効果で自己資本比率が72.1% (+7.8pt) に上昇。

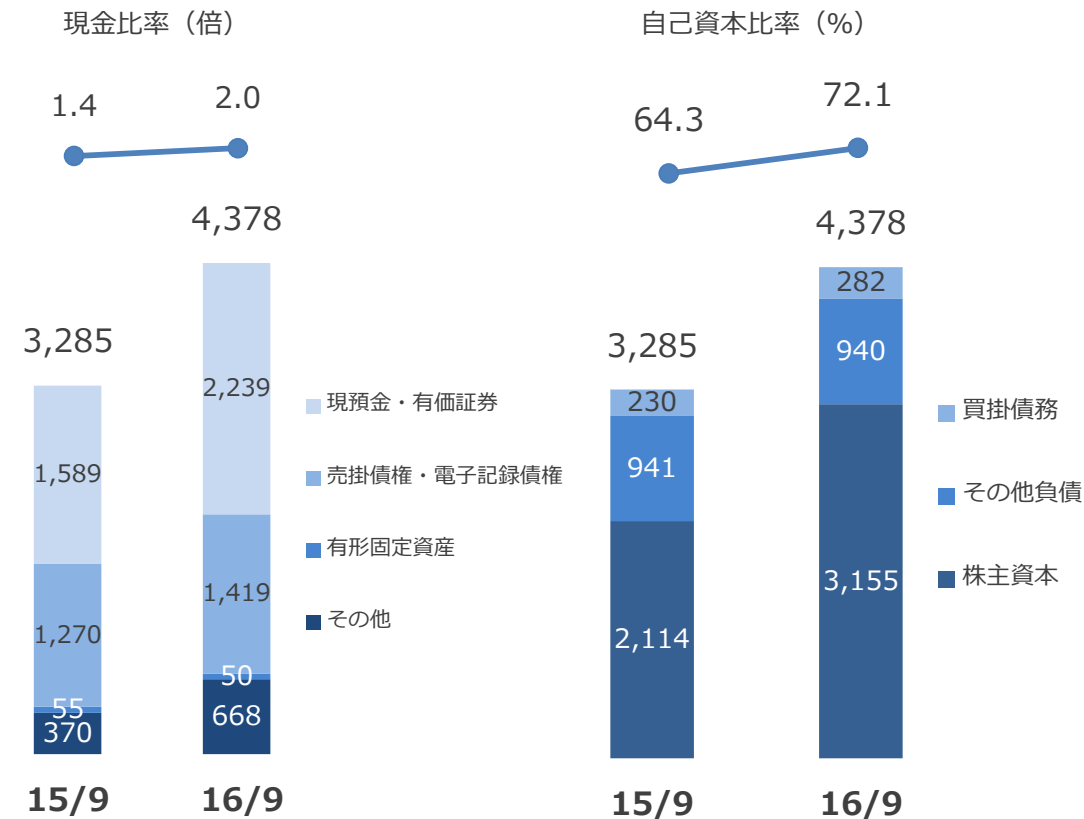
営業CF： 売上増加による税前利益、売上債権の増加。
 投資CF： 投資有価証券の取得。
 財務CF： 配当金の支払額を新株の発行による収入が吸収し、増加。

貸借対照表

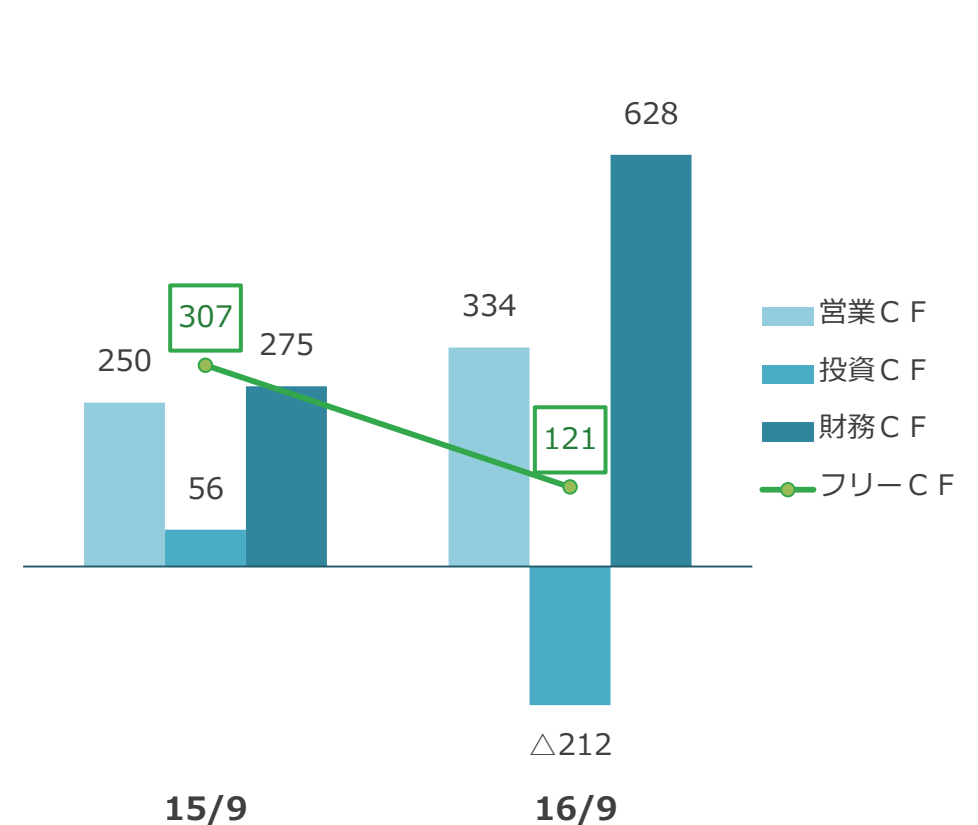
(単位：百万円)

キャッシュ・フロー

(単位：百万円)



(注) 現金比率 = 現預金・有価証券 / 流動負債



(注) フリーCF = 営業CF + 投資CF

4. PCIグループの成長性



1▶ 安定収益ステージ

～一定の事業基盤を持ち、キャッシュ・フローを創出～

- 再生可能エネルギー『Power Station』

4▶ 育成・創造ステージ

～将来を見据えた育成事業～

- 非常時のアドホック通信ネットワークの活用
- A-ya（デジタルサイネージ、FinTech）
- ZENMU

PCIグループのIoT技術
アプリケーション開発力
×
組込み制御技術
×
通信技術

2▶ 優位確立ステージ

～ビジネスモデルを実証し、早期収益化を目指す～

- V-Lowマルチメディア放送『i-dio』
- V2X（車車間通信、神戸市バスプロジェクト）

3▶ 戦略的拡大ステージ

～市場成長を先取りし、戦略的に経営資源を投入。アライアンス等を構築し、ビジネスモデルを確立～

- Amanekチャンネル
- 半導体トータルソリューション事業

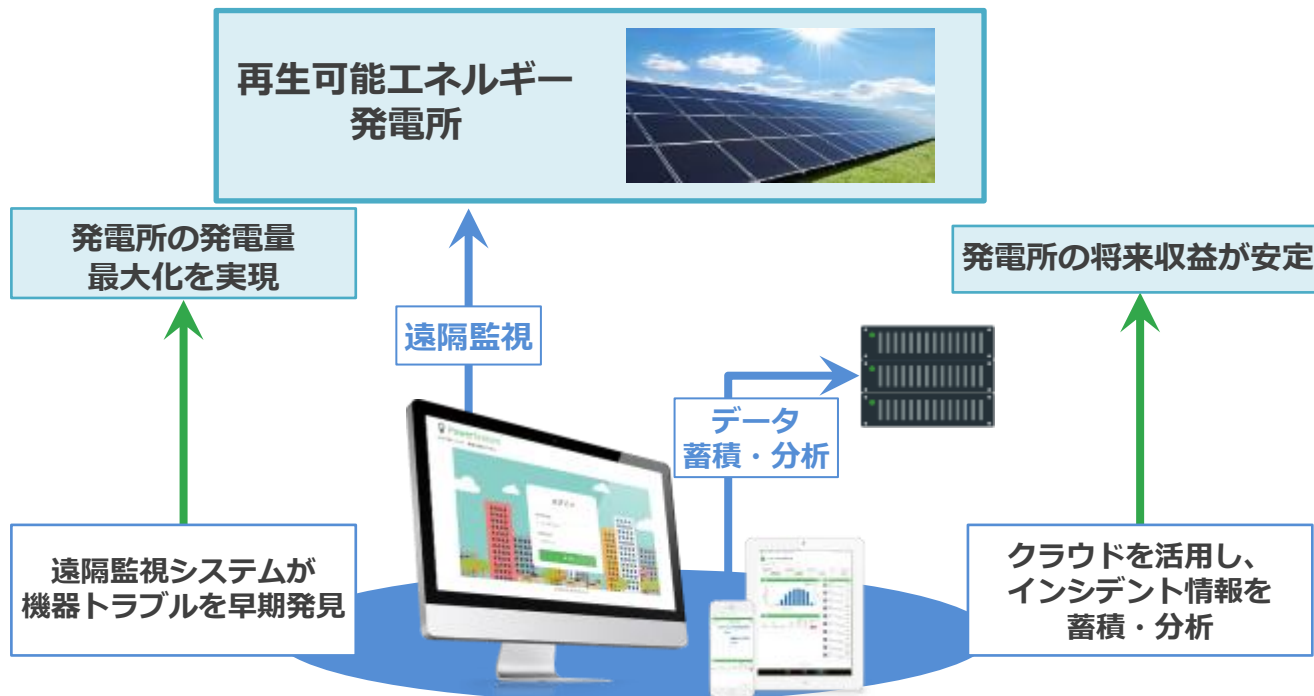
再生可能エネルギー「Power Station」

Power Stationは、再生可能エネルギー発電所の運用・維持管理業務（O & M業務）を支える統合管理システムです。当社のIoT技術を活用し入手したさまざまな情報を収集・分析することにより、機器トラブルを早期発見し、発電量の最大化を実現します。更には20年にわたる長期運用期間中のインシデント情報を蓄積・分析・対応することで、収益の安定化にも寄与します。

当社の強み・事業の特徴

- ・ 当社は発電所の開発段階から関与しており、発電所の特徴を反映した分析が可能
- ・ 大手コンサルファームと開発・発電事業者と当社（IT分野）の3社一体での関係を強化しており、開発プロジェクトのパイプラインが豊富
- ・ 再生可能エネルギー発電所は長期運転が前提であり、一度受注すると当社の長期安定収入となる

Power Stationを用いた再生可能エネルギー発電所運営の仕組み



主な機能

- スtring単位の発電状況管理
- 時間・日・月別の発電状況管理
- 顕在化した故障の検出
- ビッグデータ分析による潜在故障の推測
- インシデント管理

受注状況

- 2015年9月 2拠点（実績）
- 2016年9月 4拠点（実績）
- ~2018年各期 3~5拠点（見通し）

1▶ 安定収益ステージ

～一定の事業基盤を持ち、キャッシュ・フローを創出～

- 再生可能エネルギー『Power Station』

4▶ 育成・創造ステージ

～将来を見据えた育成事業～

- 非常時のアドホック通信ネットワークの活用
- A-ya（デジタルサイネージ、FinTech）
- ZENMU

PCIグループのIoT技術
アプリケーション開発力
×
組込み制御技術
×
通信技術

2▶ 優位確立ステージ

～ビジネスモデルを実証し、早期収益化を目指す～

- V-Lowマルチメディア放送『i-dio』
- V2X（車車間通信、神戸市バスプロジェクト）

3▶ 戦略的拡大ステージ

～市場成長を先取りし、戦略的に経営資源を投入。アライアンス等を構築し、ビジネスモデルを確立～

- Amanekチャンネル
- 半導体トータルソリューション事業

V-Lowマルチメディア放送『i-dio』による新しいサービス

- ☆ 2016年3月1日 **プレ放送**開始（福岡・東京・大阪）
- ☆ 2016年4月18日 アマネク社が九州地方へ向けた**通行実績情報の提供**を開始
- ☆ 2016年7月1日 **本放送**開始、東海地区、静岡へもエリア拡大

マルチメディア放送

音楽や音声を含めたあらゆるものを**デジタルファイル化**。ファイルには、**位置情報を付加して**、放送という方式で**一斉同時配信**を行う。

-  音楽
-  気象情報
-  交通情報
-  行楽情報
-  緊急放送
-  買い物情報



カーナビ・カーオーディオ



スマホ・タブレット



屋外サイネージ

V-Lowマルチメディア放送の概要

V-Low帯（地上アナログテレビ終了後に空いたVHF帯の周波数跡地のうち、90MHz～108MHzの帯域を指す）の放送電波と通信回線を使用し、主に移動体端末向けに音声・映像・データ等のコンテンツの配信を行う新しい放送の形態。

当社の開発範囲

- ・ 車載器向け共通プラットフォームモジュール、スマートフォン向けアプリ、番組配信サーバ
- ・ V-Lowマルチメディア放送コンテンツプロバイダーの『アマネク・テレマティクスデザイン社』へ出資



テクノロジー&コンテンツを持つ13社

出資

コンテンツプロバイダー

“日本初”モビリティ向けデジタルラジオ放送局
アマネク・テレマティクスデザイン社

コンテンツを提供

マルチメディア放送株式会社 ・ 放送業務を担当

北日本 MM 東京 MM 中日本 MM 近畿 MM 中国・四国 MM 九州・沖縄 MM

株式会社VIP

- ・ 放送法上の許認可取得
- ・ 巨額の設備投資を実施

BIC株式会社 ・ i-dio全体を推進する持株会社

主な株主：エフエム東京、産業革新機構、大日本印刷、パーク24、日本電気、東芝、日立国際電気、電通、博報堂DY

出資

V-Lowマルチメディア放送の特色

- ① 移動しながら情報が入手できるという携帯性・移動性
- ② 輻輳なく不特定多数に対し同時に情報提供可能な一斉同報
- ③ 対象エリアでのみ受信できる、「エリア放送」が可能
- ④ 音声・映像・データなど様々な情報を組み合わせて提供

アマネク・テレマティクスデザイン
コンテンツプロバイダー

- 音楽情報
- 気象情報
- 交通情報
- 行楽情報
- 緊急放送
- 買い物情報



ドライバーの「安心・安全」を目的に、今いるエリアのお役立ち情報を提供。



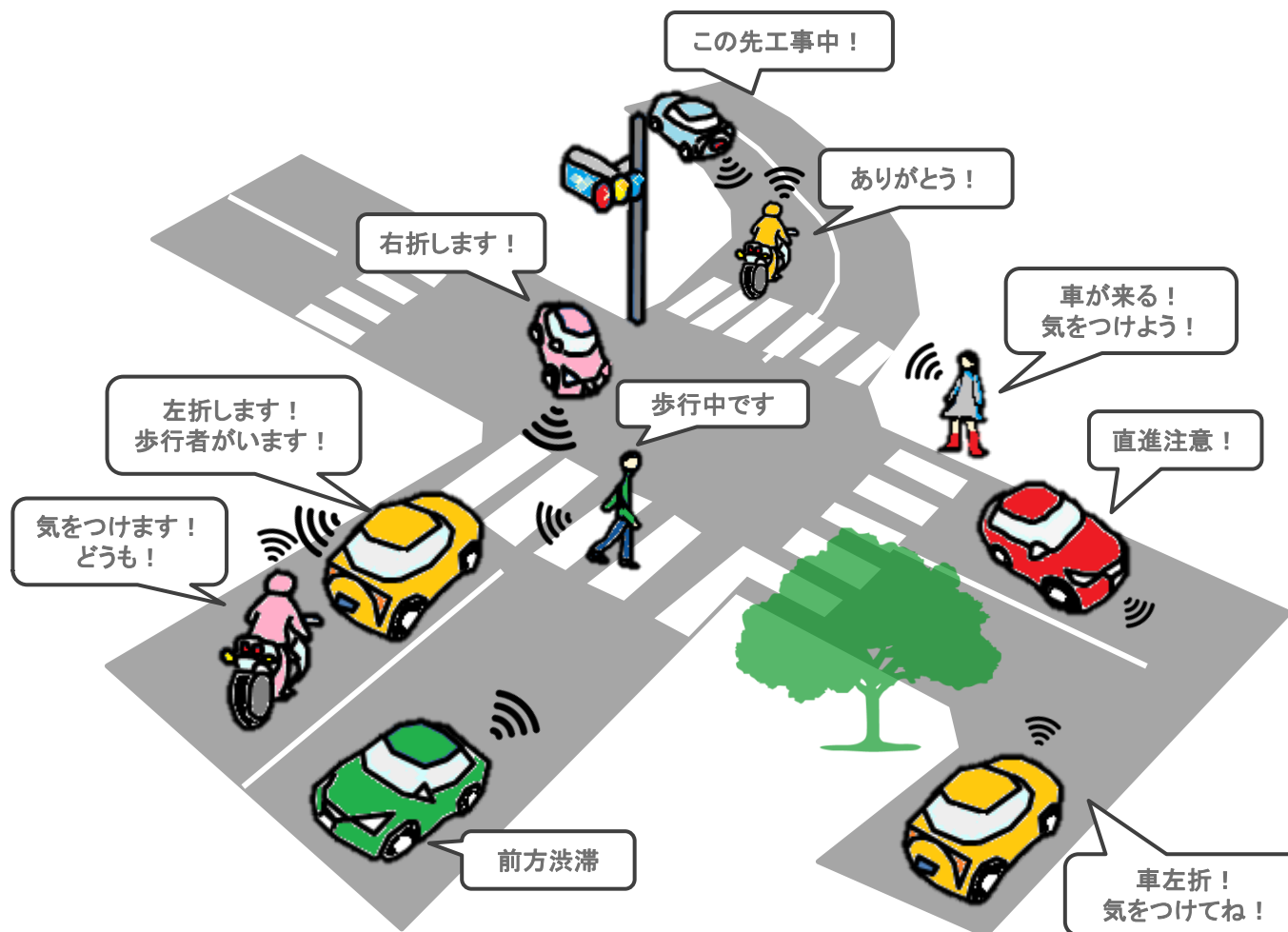
動画による
説明ページ
QRコード



(出所) エフエム東京HP等より作成

V 2 X (Vehicle to X) : 車車間通信

V 2 Xとは、自動車 (Vehicle) と他の様々な機器やもの (X) とを通信でつなげること。当社はV 2 Xを実用化する為の**V 2 Xユニットのソフトウェア開発**と一般社団法人ゲートウェイ・アップ・ジャパン (会員: 35企業・団体 4自治体 2016年3月15日時点) を通じてV 2 Xを活用した新サービスをお客様へ提案しています。



「V2Xユニット」を搭載した「市バスを情報通信基地とする実証実験」に参画

☆ 2016年2月23日 **実証実験開始**

☆ 2016年4月18日 **第一段階の結果**及び**第二段階の実証実験発表**

☆ 2016年7月15日 神戸市交通局より

「バスロケーションシステムの**実証実験結果の報告**について」 **報告**

◆ **同システムは現在も稼働中 ⇒ 今後の本格的導入を期待**

PCIソリューションズが「**実証事業主体**」として参画

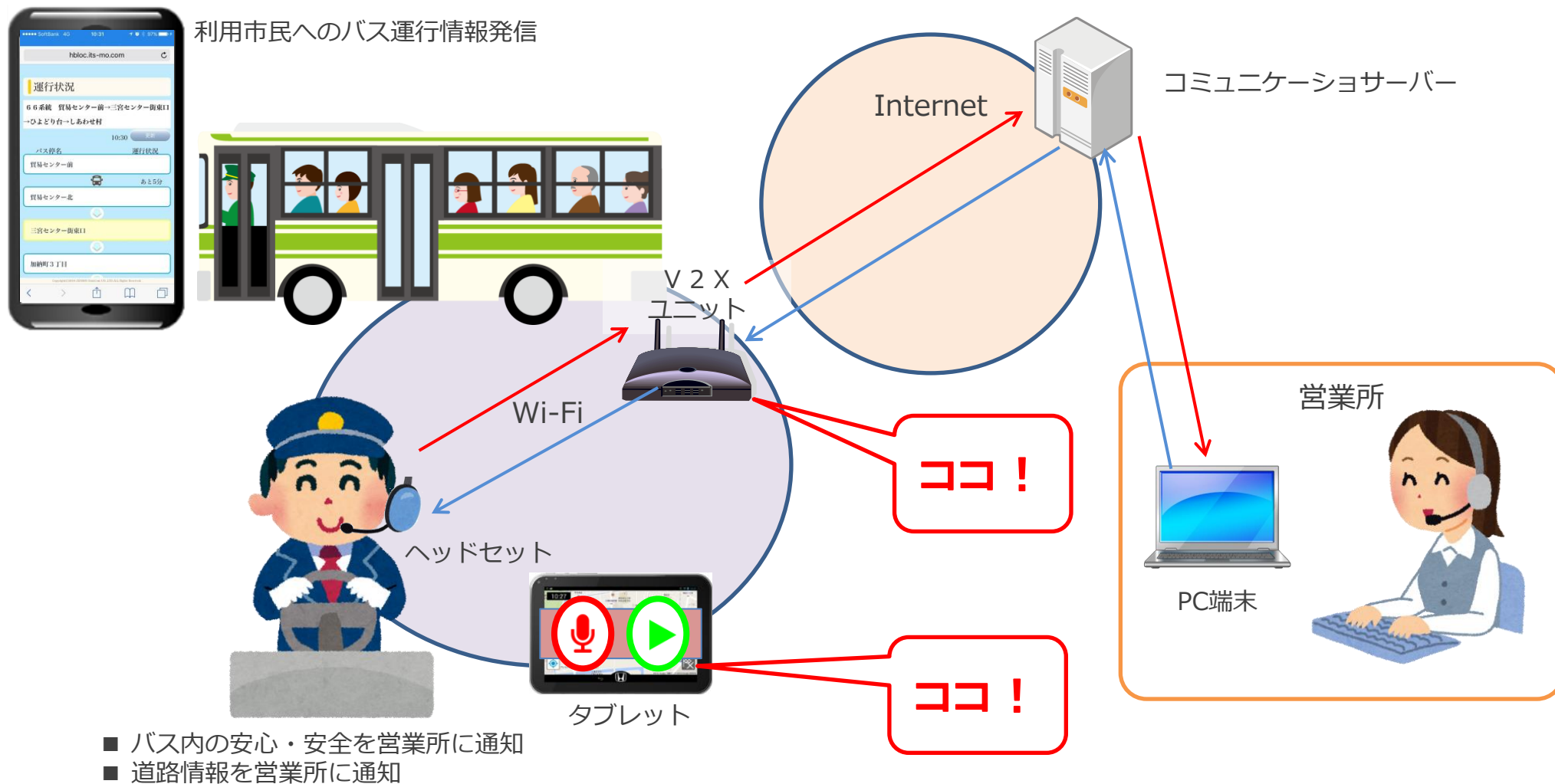
☆ **実証事業主体**

神戸市、一般社団法人Gateway APP Japan、本田技研工業株式会社、株式会社ゼンリンデータコム、ソフトバンク株式会社、**PCIソリューションズ株式会社**

☆ **今後の展開**

- ・ PCIソリューションズは、「**V2Xユニット**」を活用した**ソフトウェア開発**に携わる「**実証事業主体**」として参画
- ・ **第一段階**の「リアルタイムの市バス運行情報を**オープンデータ化（政令市初）**」及び、**第二段階**の「市バス車両に**デジタルサイネージ・車外カメラ**を設置した更なる情報発信」を実証

神戸市バスにおける「V2X」ユニットの運用・利用イメージ (安心・安全・豊かな社会)

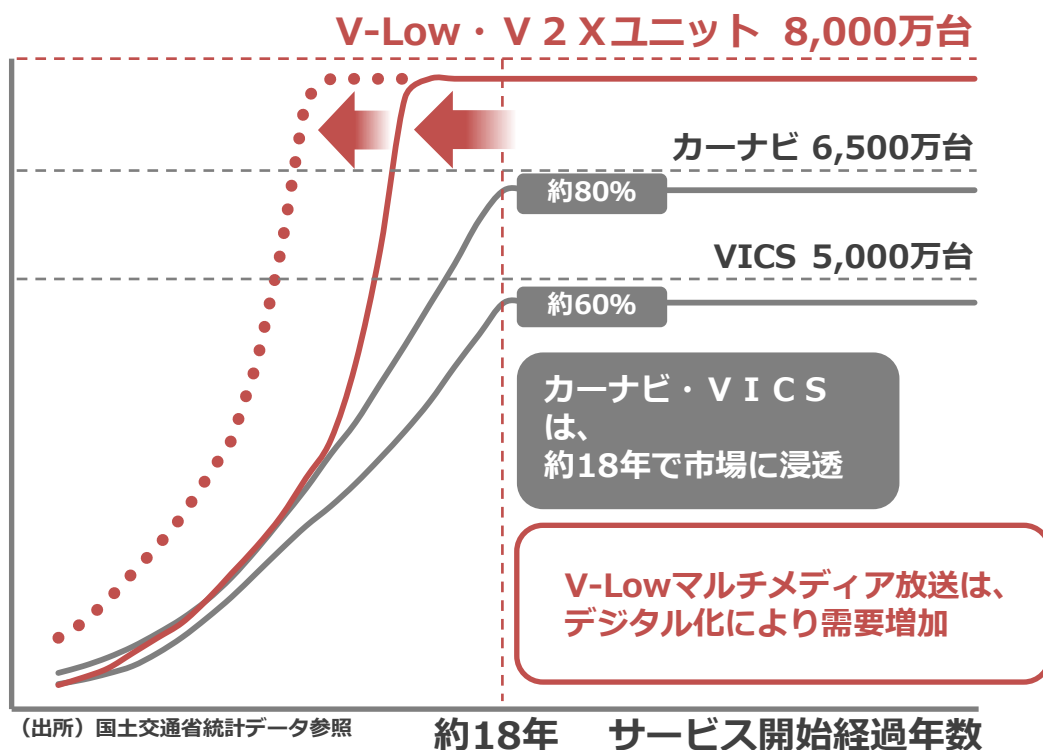


【参考】市場規模の考え方

V-Lowマルチメディア放送、V 2 Xユニットの市場規模

【普及台数の市場浸透イメージ (注)】

サービス導入車数



想定市場規模

4輪：7,750万台
2、3輪：365万台



合計 約8,000万台

(出所) 一般社団法人 自動車検査登録情報協会HP

バス・タクシー向けV 2 Xユニット活用

【バス保有台数】

ランク	社名	台数
1	神奈川中央交通	1,964
2	西日本鉄道	1,928
3	東京都交通局	1,452
4	北海道中央バス	1,150
5	名古屋市	1,032
6	阪急バス	938
7	国際興業	907
8	東急バス	892
9	西武バス	852
10	京成バス	796
25	神戸市交通局	518
国内計		48,995

(出所) 国道交通省統計データ参照

【タクシー台数】

区分	事業者数	台数
法人	15,271	203,943
個人	39,304	39,304
合計		243,247

※個人は1人1車制

※車両数は、管理課「自動車保有車両数月報」による
(出所) 一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会

1▶ 安定収益ステージ

～一定の事業基盤を持ち、キャッシュ・フローを創出～

- 再生可能エネルギー『Power Station』

4▶ 育成・創造ステージ

～将来を見据えた育成事業～

- 非常時のアドホック通信ネットワークの活用
- A-ya（デジタルサイネージ、FinTech）
- ZENMU

PCIグループのIoT技術
アプリケーション開発力
×
組込み制御技術
×
通信技術

2▶ 優位確立ステージ

～ビジネスモデルを実証し、早期収益化を目指す～

- V-Lowマルチメディア放送『i-dio』
- V2X（車車間通信、神戸市バスプロジェクト）

3▶ 戦略的拡大ステージ

～市場成長を先取りし、戦略的に経営資源を投入。アライアンス等を構築し、ビジネスモデルを確立～

- Amanekチャンネル
- 半導体トータルソリューション事業

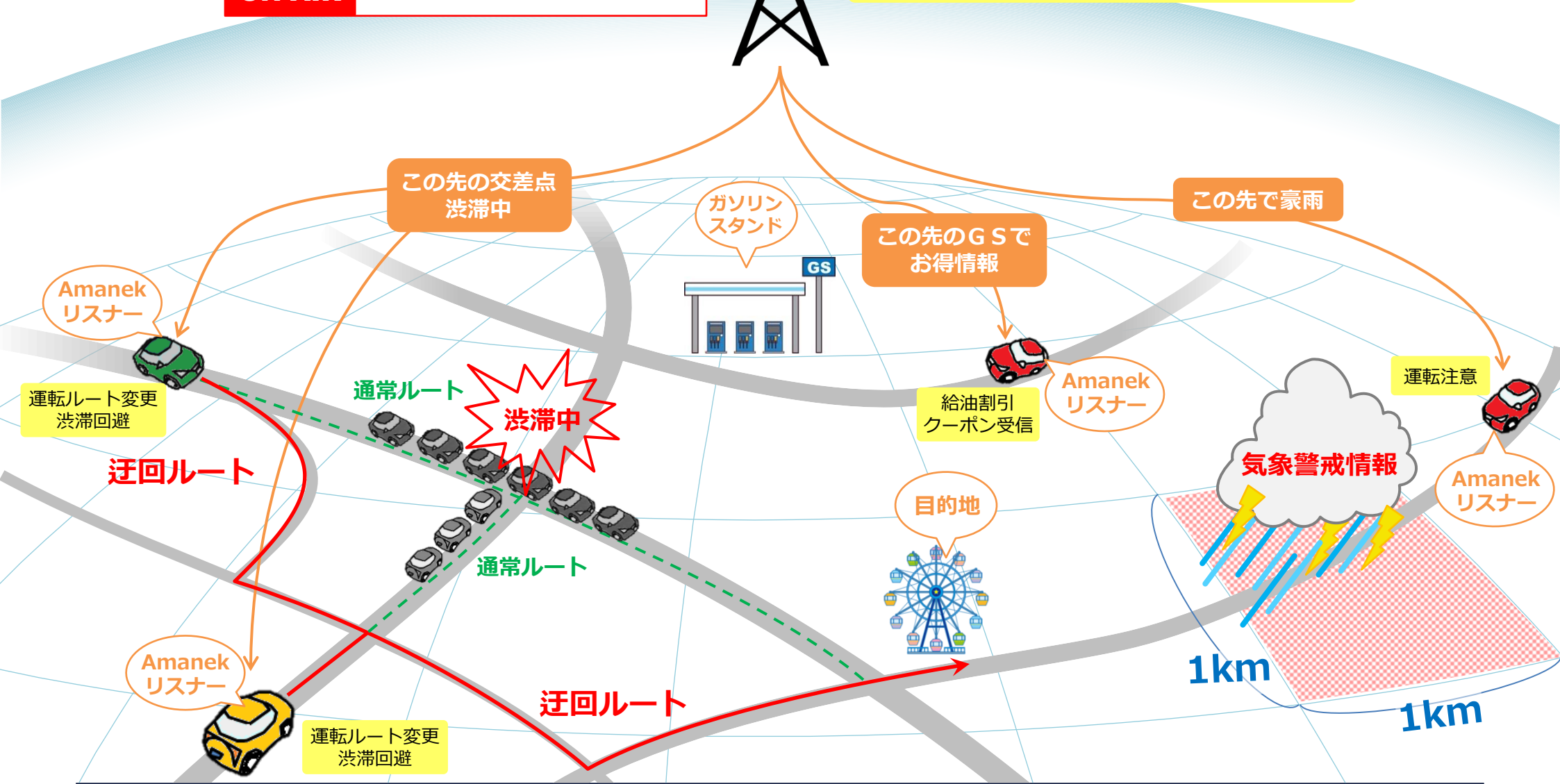
Amanekチャンネルが提供するサービスのイメージ



Amanekスタジオより
ドライバーに**15分後**の
交通情報やドライブ情報を提供。



- ①V-Lowマルチメディア放送は、輻輳がない。
- ②ユーザーのGPS情報から**1kmメッシュ**での最適な運転情報を提供。



2016年11月30日 株式会社シスウェーブを子会社化

シスウェーブ



<http://syswave.jp/>

半導体トータルソリューション

テスト、アナログ、画像処理をコアコンピタンスとして、LSI設計・テスト、FPGA、システム機器、ソフトウェア開発まで、さまざまな製品開発に先進のテクノロジーを提供。



「車載」分野でのシナジー効果！

1▶ 安定収益ステージ

～一定の事業基盤を持ち、キャッシュ・フローを創出～

- 再生可能エネルギー『Power Station』

4▶ 育成・創造ステージ

～将来を見据えた育成事業～

- 非常時のアドホック通信ネットワークの活用
- A-ya（デジタルサイネージ、FinTech）
- ZENMU

PCIグループのIoT技術
アプリケーション開発力
×
組込み制御技術
×
通信技術

2▶ 優位確立ステージ

～ビジネスモデルを実証し、早期収益化を目指す～

- V-Lowマルチメディア放送『i-dio』
- V2X（車車間通信、神戸市バスプロジェクト）

3▶ 戦略的拡大ステージ

～市場成長を先取りし、戦略的に経営資源を投入。アライアンス等を構築し、ビジネスモデルを確立～

- Amanekチャンネル
- 半導体トータルソリューション事業

「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」が発足

- ☆ 2016年1月20日 **研究会開催**の報道発表
- ☆ 2016年1月26日から開催され、同年6月29日に「**中間取りまとめ**」が公表された

総務省は、**大規模災害の発生時等**に、**自動車に搭載された通信システム**やスマートフォンの無線LAN機能等を利用してアドホックに**ネットワークを構築**し、活用する際の技術的課題について検討を行うため、「**非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会**」を開催。

☆ **主な検討事項**

- (1) 災害時に求められる**通信サービスのイメージ・ユースケース**と、**その実現手段**
 - (2) アドホックネットワークにおける**情報伝送・制御機能への要求条件**
 - (3) アドホックネットワーク構築のための**技術的課題の整理と解決の方向性** 等
- ※検討に当たり、無線方式については中立的に取り扱う

「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」が発足

☆研究会構成員

(主査)東京工業大学大学院 理工学研究科 教授 高田 潤一

東京大学 生産技術研究所教授 大口 敬

(国研)情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク研究所
ディペンダブルワイヤレス研究室長 三浦 龍

(株)トヨタIT 開発センター 研究部 シニアリサーチャー 大西 亮吉

本田技研工業(株)四輪事業本部 事業企画統括部
グローバルテレマティクス部 サービス研究開発室 TC/技師 大石 康夫

(株)NTT ドコモ R&D イノベーション本部
サービスイノベーション部 担当課長 堀口 賞一

ソフトバンク(株)プロダクト本部 法人プロダクト企画部
プロダクト企画3課 課長 松本 善徳

(株)KDDI 研究所 執行役員 研究プロモーション部門担当 田中 英明

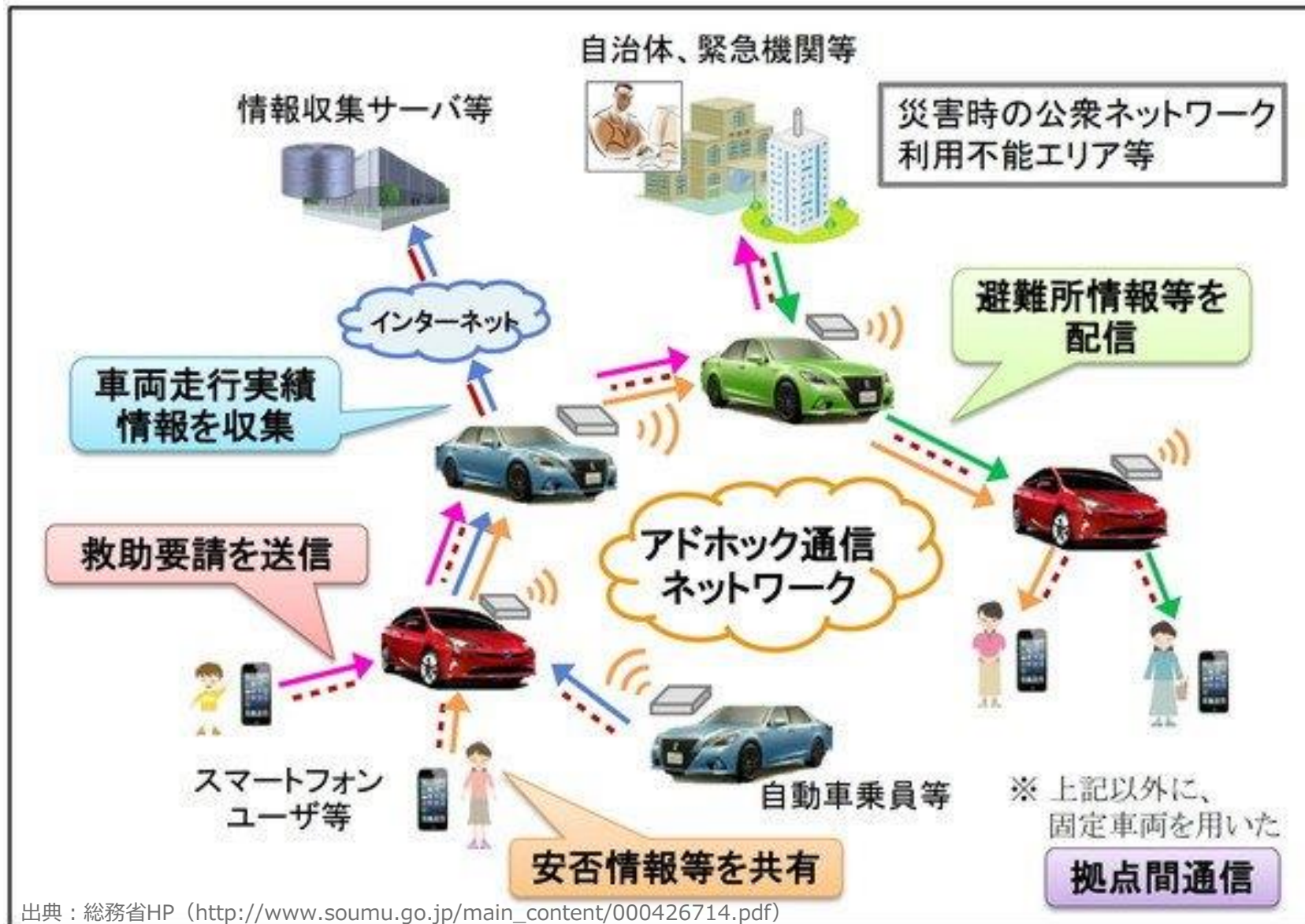
日本電気(株) システムデバイス事業部 技術部長 渡邊 敏博

沖電気工業(株)社会システム事業本部
交通・防災システム事業部 無線技術研究開発部 部長 浜口 雅春

PCI ソリューションズ(株) 執行役員 研究開発事業部 事業部長 清宮 幸夫

(順不同、敬称略)

総務省主催「非常時のアドホック通信ネットワークの活用に関する研究会」に構成員として参画



出典：総務省HP (http://www.soumu.go.jp/main_content/000426714.pdf)

ヒトとあらゆるモノを結びつける
IoT時代に最適な
コミュニケーションツール

A-ya



特徴

- BLE技術を使い、低消費電力で稼働します。
- 双方向通信を実現。
- 出力調整により有効通信範囲を可変できます。
- ビッグデータの収集ポイントとして活用可能。
- ヒト側、モノ側それぞれにSDKを準備。
- 最少開発期間で既存システムに組み込み可能です。



いまや多くの人が持つスマートフォンをヒト側のインターフェイスとして位置付け、身の回りにある様々な機器と能動的にコミュニケーションをとることで、便利で快適な日常を創りだすことを目的に開発されたのが、『A-ya』です。

活用事例



①通常時
サインボードにあらかじめ保存されているコンテンツを順次表示



②オーディエンス接近時
A-yaアプリをインストールしたスマートフォンなどの端末が接近すると、興味リストに応じて、サインボードへの表示内容を変更。



④ボタンをポン
気になる情報はA-yaボタンで。URLをスマートフォンに送信

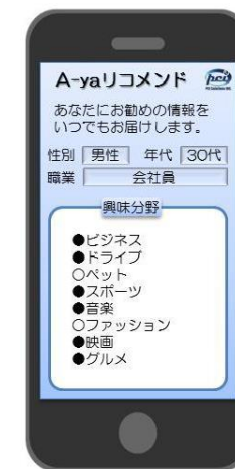


⑤情報表示
URLタップで、目的の情報ページ(ランディングページ)を表示



③スマホPush
サインボードに興味ある情報が表示されていることを、スマートフォンにPush通知

初期設定画面例



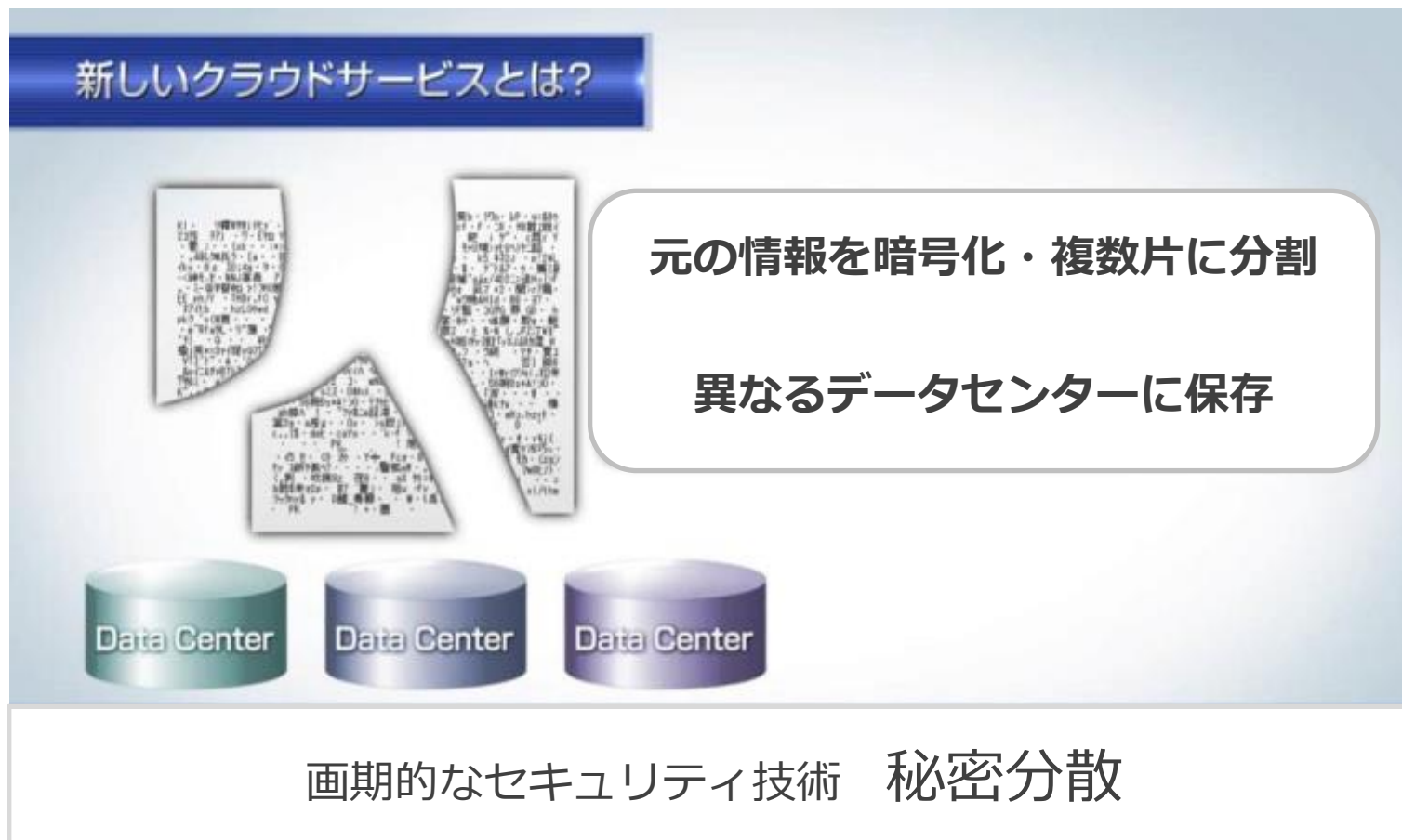
※画面は一例です。デザインや興味分野はカスタマイズ可能です。

2015年12月9日

株式会社ZenmuTechとの協業ならびに秘密分散ソリューション取り扱い開始

PCIソリューションズ株式会社が、株式会社ZenmuTech（東京都渋谷区）とセキュリティソリューション分野における協業を開始いたしました。ZenmuTech社は、利便性や生産性を損なわないセキュリティソリューションを強みとしており、秘密分散ソリューション「ZENMU（ゼンム）」（以下、ZENMU）を開発しております。ZenmuTech社と開発、販売面で協業することにより、当社ソリューションの選択肢の1つとしてZENMUの取り扱いを開始。当社がこれまで培ってきた技術を、セキュリティソリューション分野においても役立てることを目的としております。

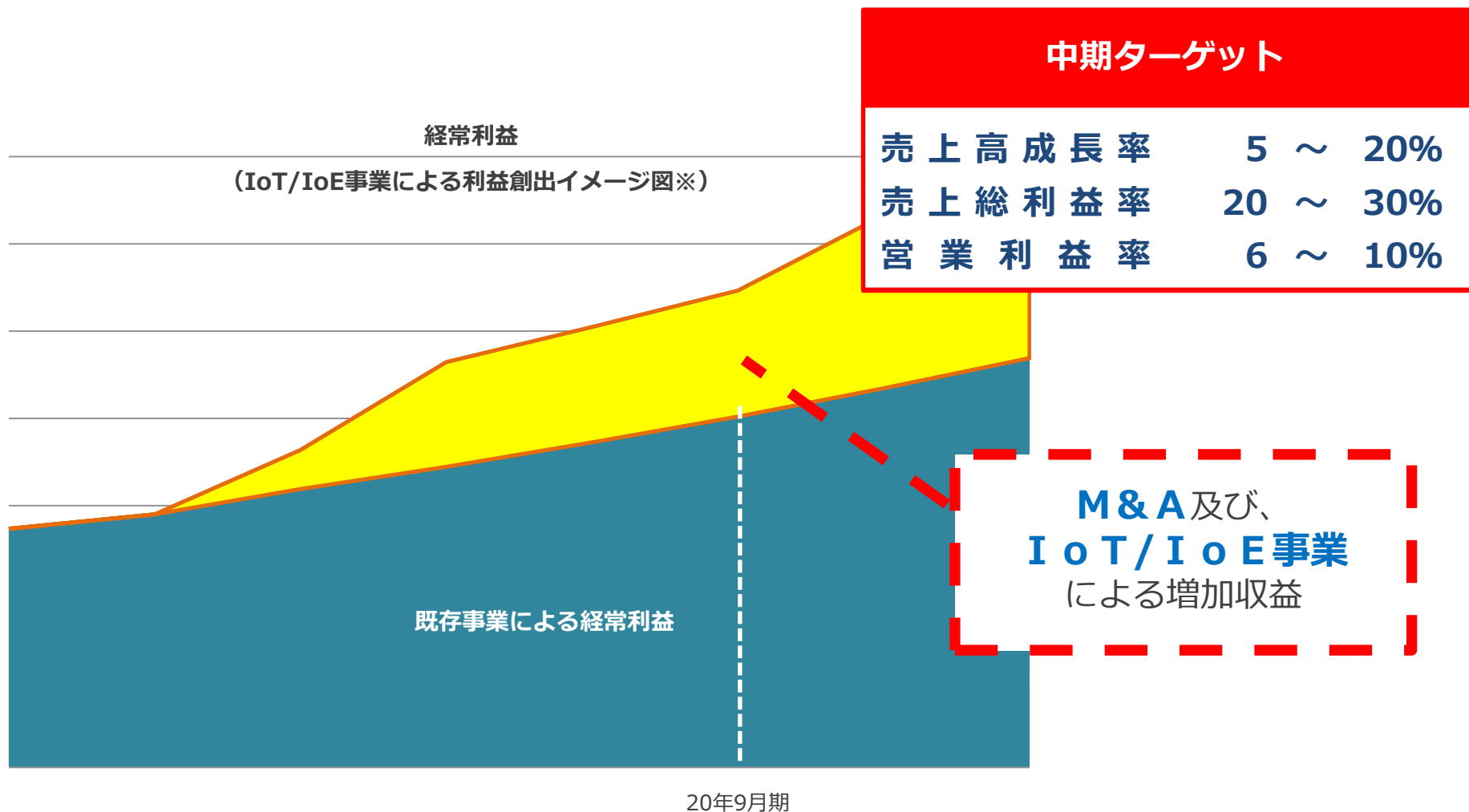
※2017年2月1日より、株式会社TCSIは、株式会社ZenmuTechへ社名変更いたしました。また、商品名を「PASERI」より「ZENMU」へ変更しております。



5. PCIグループの株主還元



(1) 2016年9月期実績に基づく収益構造と中期ターゲット



※ IoT/IoE事業による利益創出イメージ図は、現在織り込んでいないM&A、V2Xユニット、V-Lowマルチメディア放送、デジタルサイネージ等の新しい取り組みによる収益を反映させた予想値をグラフ表示しているものです。当該事業の今後の拡大規模や展開スピードにより大きく変動することが予想されるため、当社計画値を表すものではありません。

(2) 株主還元について

株主還元方針

安定した配当を維持継続し、業績に裏付けられた更なる配当水準の向上
[連結配当性向：30%～50%を目安とする]

配当推移

	2013年9月期 (実績) (未上場時)	2014年9月期 (実績) (未上場時)	2015年9月期 (実績)	2016年9月期 (実績)	2017年9月期 (予想)
年間配当金	32.5円	35円	40円 (普通配：35円) (記念配：5円)	50円 (普通配：40円) (記念配：10円)	50円 (普通配：50円)
配当性向	—	—	34.0%	42.1%	—

(注) 平成27年3月23日付で普通株式1株につき100株、平成28年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

(3) まとめ

私の思い

- ・2017年9月期の当社「Motto」
『**全社員が一部上場会社の社員としての自覚とプライドを持ち、一部上場企業としての品格とビジネスを追求し、エクセレントカンパニーの基盤を作る。**』
- ・ステークホルダーの皆様とともに、当社グループの『**持続的な成長**』と『**中長期的な企業価値の向上**』を図ってまいります。
- ・初心を忘れず、同じ価値観を共有できる『**真に実力のある**』会社と一緒に拡大・成長を図ります。
- ・誠実に、正しく、愚直に事業に取り組み、『**安全・安心・豊かな社会**』に当社グループの技術力が少しでも貢献できるよう努力してまいります。

事業のキーワード

- エンベデッド（組込み系システム開発）**
 - ・自動車、家電製品等には様々なソフトウェアが組み込まれております。
- 車向けマルチメディア放送「Amanekチャンネル」**
 - ・2016年3月1日より放送が始まりました。
- V2X（車車間通信）**
 - ・今後、様々な場面での活用が期待されております。（神戸市バス）

これらのキーワードを
目にしたら、耳にしたら



「P C I」

を思い出してください。

<参考資料集>



(1) 子会社各社の事業内容

PCIソリューションズ

エンベデッド
ソリューション

ビジネス
ソリューション

IoT/IoE
ソリューション

当社グループの連結売上高の約90%を占めるソフトウェア開発事業会社。

参入障壁が高いといわれる自動車産業向け、通信端末、情報家電等の様々な電子機器を制御する組み込み系（エンベデッド）ソフトウェア開発に強み。一般事業法人向けソフトウェア開発においては、幅広い分野でお客様の需要に応えている。

システム開発だけでなくIT人材の育成を目的に教育にも力を入れ、システムと人の両面から顧客に最適なソリューションを提供。

加えて、組み込み系（エンベデッド）ソフトウェア開発で培った技術を基に、自動車産業関連のIoT/IoEソリューションへも展開している。

PCIアイオス

ビジネス
ソリューション

IoT/IoE
ソリューション

オープンソースソフトウェアを活用した、短期間且つ高品質な開発を得意とするソフトウェア開発事業会社。

オープンソースソフトウェアによるITシステム構築需要に応える他、業種特化した自社開発ソフトウェアパッケージを有し、その販売ならびに当該業種の業務知識を活用したコンサルテーションも実施。オープンソースソフトウェアとクラウドのノウハウを活かした再生可能エネルギー関連データ収集IoTデバイスや収集したデータ分析を行う。クラウド運用サービスまで一括して受託するビジネスを担う。

Inspiration

IoT/IoE
ソリューション

少数精鋭による高スキルエンジニア集団のソフトウェア開発事業会社。

自社で開発した開発フレームワークを活用した短期間開発が特色。自動車販売店向けソフトウェア開発を得意としており、特にIoT/IoEソリューションとしてのWebサービスの構築・販売に強みを持つ。自動車業界における豊富なサービス運用実績より生み出されたノウハウを基に、システム開発、Webデザイン、コンテンツ制作、ヘルプデスク業務をワンストップで提供している。

シスウェーブ

半導体トータル
ソリューション

LSIの世界を支えるテストエンジニア企業。

テスト、アナログ、画像処理をコアコンピタンスとして、LSI設計・テスト・FPGA、システム機器、ソフトウェア開発まで、様々な製品開発に先進のテクノロジーを提供している。

(2) 2016年9月期 連結損益計算書

(百万円)	2015年9月期			2016年9月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,938	3,914	7,853	4,262	4,242	8,504
エンベデッドソリューション事業	-	-	-	2,000	2,110	4,111
ビジネスソリューション事業	-	-	-	1,834	1,785	3,619
IoT / IoE ソリューション事業	-	-	-	427	346	773
売上原価	3,068	3,022	6,090	3,228	3,295	6,523
売上総利益	869	892	1,762	1,033	947	1,981
エンベデッドソリューション事業	-	-	-	463	438	901
ビジネスソリューション事業	-	-	-	426	405	831
IoT / IoE ソリューション事業	-	-	-	143	103	247
販管費	554	660	1,215	661	729	1,391
営業利益	315	231	547	372	217	590
営業外収益	8	2	11	12	4	16
営業外費用	2	11	13	2	12	15
経常利益	321	223	544	382	209	591
税金等調整前当期純利益	320	192	512	382	209	591
法人税等	135	46	181	119	68	188
親会社株主に帰属する当期純利益	184	145	330	262	140	403

※2016年9月期より売上区分をサービス提供形態から技術特性分類へ区分変更を行ったため、前期売上・売上総利益実績の内訳は掲載しておりません。

(3) 2016年9月期 連結貸借対照表



(百万円)	2015年9月期				2016年9月期			
	1 Q (参考)	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
流動資産	2,418	2,451	2,357	3,087	2,962	2,864	3,204	3,898
現預金	819	700	790	1,489	1,127	1,005	1,571	2,239
売上債権	1,361	1,446	1,305	1,270	1,587	1,567	1,346	1,419
その他	238	304	262	327	248	291	286	238
固定資産	330	323	330	198	310	470	476	480
資産合計	2,748	2,774	2,688	3,285	3,273	3,335	3,680	4,378
流動負債	1,458	1,375	1,199	1,096	1,105	1,005	1,258	1,119
仕入債務	338	211	198	230	438	303	284	282
その他	1,119	1,164	1,001	866	667	701	973	837
固定負債	61	65	70	74	77	82	99	103
負債合計	1,519	1,441	1,270	1,171	1,183	1,087	1,357	1,222
純資産合計	1,228	1,333	1,417	2,114	2,090	2,248	2,322	3,155
負債純資産合計	2,748	2,774	2,688	3,285	3,273	3,335	3,680	4,378

※2015年9月期第1四半期は、参考数値。

(4) 2016年9月期 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)	2015年9月期		2016年9月期	
	上期	通期	上期	通期
営業活動によるCF	△ 297	250	△ 160	334
税金等調整前当期純利益	320	512	382	591
減価償却費	17	32	16	34
のれん償却額	2	5	1	3
売上債権の増減額	△ 244	△ 68	△ 297	△ 149
たな卸資産の増減額	5	△ 1	2	1
仕入債務の増減額	45	64	73	51
その他	△ 445	△ 295	△ 340	△ 199
投資活動によるCF	△ 22	56	△ 195	△ 212
有形固定資産の取得	△ 8	△ 12	△ 0	△ 3
投資有価証券の取得	-	△ 10	△ 185	△ 185
その他	△ 13	79	△ 9	△ 23
財務活動によるCF	14	275	△ 128	628
長短借入金の純増減額	0	△ 250	-	-
株式発行による収入	-	636	5	773
配当金の支払額	△ 95	△ 95	△ 133	△ 133
その他	109	△ 14	△ 0	△ 11

(5) エンベデッドシステムとは

- ・エンベデッドシステム（組み込みシステム）は、スマートフォンや自動車、家庭用電子機器・医療機器・産業用機器等、「制御」を必要とするあらゆる製品に内蔵されているコンピュータシステムです。
- ・身の回りの多様化する様々な製品に、当社グループの最先端技術が数多く活用されています。
- ・このエンベデッドシステム開発は当社が最も得意としている分野であり、当開発で培った通信制御技術・組み込み制御技術を応用したものが、IoT/IoEソリューション事業にも活かされています。

お客様（主に製造業者）

〇〇な機能を開発して欲しいなあ



要件定義・基本設計

開発事例

カーナビ



- ・タッチパネルで画面を切り替える機能

自動車



- ・アクセルを踏むとガソリン噴射量を制御する機能
- ・エンジン、エアコン等の制御機能
- ・センサーによる自動駐車機能

スマートフォン タブレット



- ・ディスプレイ表示の仕組み
- ・アプリケーションの基盤
- ・データ通信機能
- ・電波を切替える機能 等々

デジタルカメラ



- ・画面上的アイコン・ボタンメニュー等を操作する機能
- ・シャッターを押してフォーカスを合わせる機能
- ・画像処理機能 等々

製品にチップセット組み込み

納品

発注

高い参入障壁

製造業者はリコールリスクを回避するため実績・信頼ある企業にのみ発注

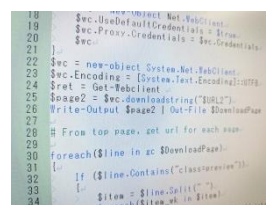


システム開発

詳細設計

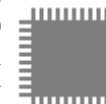
プログラミング

テスト



開発したプログラムをチップセットに格納

チップセットとは、ある機能を実現するための集積回路の組み合わせのこと。ソフトウェアの開発力でハードの複雑な機能を実現する。



多岐にわたる機能を必要とする機器のシステムは、最先端技術を駆使し、複数のハードウェア・ソフトウェアを組み合わせ開発しています。

※上記は一例になります。上記以外にも当社グループは幅広い技術でお客様のニーズにお応えしております。

IoT (Internet of Things)

コンピューター等の情報・通信機器だけでなく、センサーや家電など様々な「モノ」をインターネットに接続させ、通信させることで、遠隔計測、自動認識や制御等を行うこと。

IoE (Internet of Everything)

IoTよりも広い概念。ヒト・モノ・プロセス・データ等がインターネットにつながり、相互に通信が可能となる技術や状態、仕組みのこと。

フィンテック (FinTech, Financial Technology)

ファイナンスとテクノロジーをあわせた造語。ITを活用して金融、決済、財務サービスなどを生み出したり、見直したりする動きのこと。

AUTOSAR : (AUTomotive Open System ARchitecture)

車載ソフトウェアプラットフォームの仕様の名称及び自動車業界のグローバル開発パートナーシップ

BP

ビジネスパートナー企業やその技術者。

V-Lowマルチメディア放送

V-Low帯（地上アナログテレビ終了後に空いたVHF帯の周波数跡地のうち、90MHz～108MHzの帯域を指す）の放送電波と通信回線を使用し、主に移動体端末向けに音声・映像・データ等のコンテンツの配信を行う新しい放送の形態。

V2X (Vehicle to X)

自動車 (Vehicle) と他の様々な機器やモノ (X) とを通信でつなげること。

プル型・プッシュ型情報配信

プル型情報配信とは、デバイスがインターネットに繋がったサーバーに対し情報取得をリクエストしてデータを取得すること。
プッシュ型情報配信とは、サーバー側が一方向的に情報を配信しデバイスに表示する仕組みのこと。

O&M (Operation & Maintenance)

運用・保守。

デジタルサイネージ (Digital Signage)

デジタルサイネージとは、商業施設や駅、店頭、公共空間等で、ネットワークに接続したディスプレイで映像や情報を表示するシステムのこと。

オープンソースソフトウェア (Open-Source Software)

ソフトウェアの設計図にあたるソースコードをインターネット等により無償で公開し、誰でもそのソフトウェアの改良、再配布が行えるソフトウェアのこと。

本資料のいかなる情報も、弊社株式購入や売却などを勧誘するものではありません。本資料に記載されている業績予想及び将来の予測等に関する記述は、資料作成時点での入手された情報に基づき弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いかねますのでご承知おき下さい。

お問い合わせ先

PCI ホールディングス株式会社 グループ戦略室
E-mail ir@pci-h.co.jp



【コード : 3918】